

2012年度は前年度と同様の3人による診療体制である。外科への直接の新入院患者数は214名で感染症15例、新生物35例、呼吸器疾患4例、消化器疾患60例、その他100例だった。

手術件数は前年度の154例に対し168例だった。全麻・腰麻手術は、前年度131例から140例と微増した。

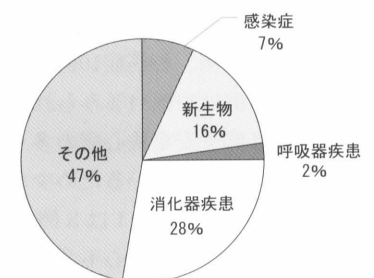
悪性新生物は前年度35例から51例となった。内訳は胃癌が前年と同様14例だったが、うち腹腔鏡下胃切除術を3例から8例となり半数以上を腹腔鏡下で手術を行なった。大腸癌は17例で、うち直腸癌は5例で前年より増加した。肝胆膵領域では肝切除を3例に行った。近年乳がんの罹患率の上昇が顕著であるが、当院でも前年度の3例から11例と大幅に増加した。温存手術も3例に行ない、熊本市内の病院と連携し術後放射線照射まで行っている。

胆石・胆嚢炎では計33例の手術を行い、うち腹腔鏡下胆嚢の手術を31例で鏡視下手術の遂行率は94%に達した。急性虫垂炎は10例で、うち4例に鏡下手術を行った。鼠径・大腿ヘルニアは27例だった。

前年度腹腔鏡下手術システムが更新されたことで、高画質の画面による鏡視下手術の拡大視効果が十二分に発揮され、今まで以上に繊細で安全な手術が可能となった。



入院患者の内訳



	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度		2012年度	
	局麻	腰全麻	局麻	腰全麻	局麻	腰全麻	局麻	腰全麻	局麻	腰全麻
甲 状 腺		1								
皮 下 腫 瘍 摘 出	13		12		19		10		15	
IV ポ ー ト	4		7		2		6		7	
デ ン バ ー シ ャ ン ト			1							
そ の 他 の 局 麻 手 術			3		3		7		5	
A u c h i n c l o s s		4		2		2		3		8
乳 房 温 存 手 術		1				1				3
胃 全 摘		7		3		3		3		2
胃 切 除		3		5		7		8		4
腹 腔 鏡 補 助 下 幽 門 側 胃 切 除 術						4		3		7
腹 腔 鏡 鏡 視 下 胃 全 摘										2
汎 発 性 腹 膜 炎				2		1		2		14
結 腸 切 除 術		5		7		12		9		5
低 位 前 方 切 除 術		4		4		3		3		
腹 会 陰 式 直 腸 切 断				1						
腹 腔 鏡 補 助 下 結 腸 切 除 術		1		2				3		
イ レ ウ ス		7		8		3		3		2
虫 垂 炎 (鏡 視 下)		11		8		9		6 (2)		10 (4)
痔 疾		2		2		1				
肝 切 除								1		3
開 腹 胆 摘		9		4				6		2
腹 腔 鏡 下 胆 嚢 摘 出 術		33		36		43		37		31
鼠 径 ・ 大 腿 ヘル ニ ア		26		24		36		25		27
そ の 他 の ヘル ニ ア		5		6		2		5		7
そ の 他 の 手 術	2	8		15		19		6		10
膵 頭 十 二 指 腸 切 除								1		
総 胆 管 結 石 摘 出 (鏡 視 下)								2 (2)		2
膵 体 尾 部 切 除								1		
合 計	19	127	23	129	24	146	23	131	27	139

()は緊急手術数